

砧(きぬた)ってどんな意味？どこから来たの？

7～8世紀頃、この辺りは「武蔵国(むさしのくに)」と呼ばれていました。その頃、朝鮮半島から移り住んできた帰化人によって機織りが広まりました。当時、武蔵国は、衣(きぬ)や麻などを特産品として朝廷に納めていたようです。衣や麻を作るとき、叩いて柔らかくしたりつやを出したりする際に使った「杵のような道具」と「石の台でできた道具」を「きぬいた(衣板)」と呼び、いつしかそれを打つ作業や打つ音も「きぬいた」→「きぬた」と呼ぶようになりました。編集委員の中からも「それ、子どもの頃に見たことがある！」という声があがりました。そのときは、衣や麻ではなく藁(わら)を叩いていたそうです。わらじを作っていたのですね。

全国でも唯一の地名「砧」。この土地だからこそ生まれた地名。

明治の初めの頃、この辺りは「神奈川県大蔵村」と呼ばれていました。明治22年に市町村制が施行され、喜多見、大蔵、宇奈根、鎌田、岡本の5つの村が合併し「北多摩郡砧村」となりました。当時の村の有識者たちが集まって、新しい村の名前を協議したと思われます。その際、この地域が奈良・平安時代から絹織物の生産が盛んであったことから「砧という名前がいいのではないか」と考えたのでしょうか。有識者たちは、この地に響き渡る「砧の音」を地名に選びました。雑木林や竹やぶが点在し畑が広がる風景の中、「砧」はどんな風に聞こえていたのでしょうか。先人が選んだ「砧」という字。「砧」という地名。ずっと愛着をもって、まちの誇りにしていきたいですね。

*明治26年に北多摩郡が東京府に編入され、「東京府北多摩郡砧村」となりました。

現在(いま)と違う過去(まえ)のすがた。「砧」は一度消滅した？！

昭和11年、北多摩郡砧村と千歳村は「世田谷区」に編入されます。その際、「砧村」は元の喜多見、大蔵、宇奈根、鎌田、岡本の5つの名称となり、ここで一度「砧」という地名は消えてしまいます。鎌田町は18の飛地から成っており、大蔵町や祖師谷町内に点在していました。昔は川の周辺に生活の拠点が設けられていて、人々が最初に住みついたのも川の近くでした。そのような人々は、洪水の際の避難場所として、あるいは農地や農作業の休憩場所として、川から少し離れたところに点々と土地を持っていたようです。それがこの地域の「飛地」です。昭和30年に鎌田町の統合を中心とした飛地整理が行われました。それにより、「登戸道(ほぼ現在の世田谷通り)以北の大蔵町の区域とその区域内にある飛地」で「砧町」が新設されました。ここで「砧」は再登場するのです。よかったですね。

いかがでしたか？「砧」の由来。耳をすませば「砧」の音が聞こえてきそうですね。このミニコミ紙の「砧のひびき」という名前は、本当にいい名前だな、とみんなで感動しました。



お話をしてくださった竹内秀雄さん(砧4丁目在住。砧町町会監事)→